

TOKYO
東京



お腹減ったー!

11人でツーリングを共有!

裏ワザ!?

タンデムライダーはBTTボタンをしのぼせろ!

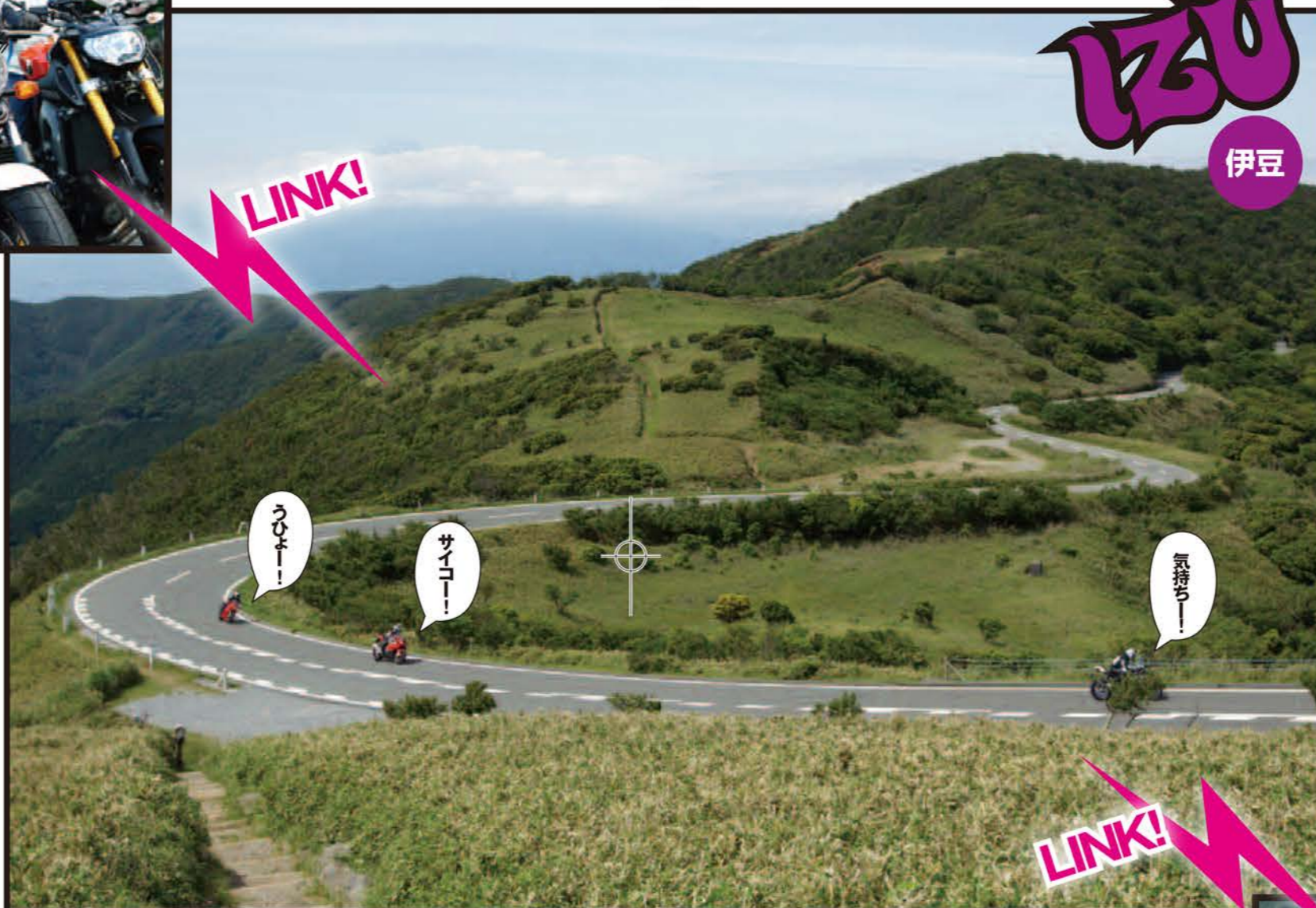
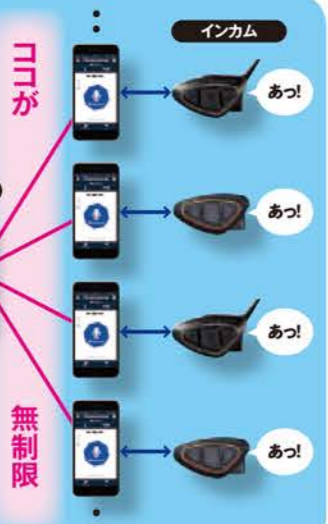
タンデムライダーのポケットにBTTボタンを入れておくことで、わざわざスマートフォンを介さずとも、同じようにグループ通話に参加することが可能となる。ヘルメット越しの相手とも、遠く離れた仲間とも楽しくおしゃべりしながら道中を堪能することができるのだ。

何故できる!?

インターネット
BLUETOOTH



「BT TALK」同士の通信手段は、Bluetoothではなくインターネット。つまり相手が圏外でない限り、地球上のどこにいても、何人いても通信が可能となるシステムだ。



LINK!

うひゃー!

サイコー!

気持ち!

LINK!

「BT TALK」ダウンロードはこちら!



使うモノ

ミッドランド製インカム

新発売の「BT PRO」をはじめとするミッドランド製インカムは、アプリ内の音声をBluetoothを介して受話&発話するために必要だ。



アプリ「BT TALK」

上記のバーコード等からダウンロードできる無料の「BT TALK」をツーリングに行くメンバーで共有すれば、起動中に通信が可能となる。



BTTボタン

BTTボタンをスマートフォン内のBluetoothに登録することで、アプリ内の通話ボタンとBTTボタンを同期することができる。

取材協力: LINKS ☎: 075-708-2362

Bike Life Revolution

バイクライフ革命

その3 大人数で出かけろ!

ミッドランドが新たにリリースしたのは、インカム通信がもつ「距離」と「使用人数」の制限をなくして、画期的なシステムだった。今回は、遠く離れた3箇所に分かれた11人で通話を行うことで本システムを検証してみた。

写真: 飛澤 慎/長野浩之/石村英治 (フォトスペースRS)



えー夫気!

キレイや!

KOBE
神戸

人数&距離の壁を超えツーリングをより楽しく!

今回は、ミッドランドがリリースしたアプリ「BT TALK」を使用して、そのアプリが持つ最大の魅力である距離無制限、「人数無制限」を検証するため、11人が3組に分かれ、それぞれが離れた場所でツーリングしながらも同時に通信をするという実験を敢行した。

人数が増えても機能は単純明快だ。「BT TALK」をインストールしたスマートフォン同士が、インターネットを通じて音声通信をする。インカムの

役割はBluetoothでスマートフォンからの音声を拾うことに徹する。そのため、世界中に張り巡らされているインターネット網が、すべて通信範囲となるわけだ。

結果として、アプリの力でツーリングは大盛り上がり! もちろん、同じ場所にいるメンバー同士では、インカムの機能を使用することで、より応答性の高い通話が可能となる。ふたつの通話を使い分けることで、ツーリングがもっと楽しくなるぞ!

大人気ニューモデル! BT PROシリーズ

ミッドランドが取り扱うインカムの最新作、さらに高機能に進化した「BT PROシリーズ」は3つのグレードが準備され、いずれのタイプも「BT TALK」に対応している。また、新機能として内部の3Gセンサーで制動力を感じ、後方のLEDが点滅することでブレーキの合図を送るブレーキライト機能を新たに搭載した。

	BT NEXT PRO	BT X2 PRO	BT X1 PRO
シングル想定価格	3万1320円	2万2680円	1万7280円
ツイン想定価格	6万1560円	4万4280円	3万3480円
2台間最大通信距離	1600m	1000m	300m
同時通話人数	最大8人*	最大4人	最大2人
他社接続	2台	1台	1台
BTTボタン対応	○	○	○
連続通話時間	20時間	20時間	20時間

(*ドライバー4人+タンデムライダー4人)

大人気ニューモデル! BT PROシリーズ



BT NEXT PRO

シリーズ内のフラッグシップモデル。Bluetoothをデュアルで搭載。ステレオ音声を聞きながらインカムで会話できる

BT X2 PRO

4人同時に話せる中級モデル。最大通話距離は1000m、音楽のシェアも可能だ。

BT X1 PRO

2人までの使用がメインのエントリー機。ワイドFMラジオなど、ソコ向け機能も充実。